

令和5年度 第4回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概要)

1 開催日時

令和6年3月8日(金) 13時30分～15時30分

2 開催場所

中部森林管理局 入札室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4 検討結果

全国的な木材の需給動向を見ると、新設住宅着工戸数が8か月連続で減少(1月時点)している中、冬期の不需要期を迎え、国産材製品については荷動きが低迷している。原木の荷動きについても、製品需要の伸び悩みと積雪・降雨等の影響で供給量が低調となっており、こうした需給関係から価格はおおむね保合で推移している。

また、2月のプレカット工場の受注は1月並みの低水準で苦戦しており、3月の見積もりは、やや改善傾向にあるものの、大きく回復する要素は見当たらず、小幅な増減を伴いながら低迷が続くとの見方もある。

一方、中部局管内の原木価格に目を向けると、第3四半期以降は外材の代替需要もあり、地域によってスギの下落傾向やヒノキの上昇傾向が散見されるが、概ね横ばいで推移しており、全体的にはウッドショック以前の価格よりやや高値で踏みとどまっている。

このように、直近の木材需給及び価格の動向に大きな変化は見られず、また、供給調整の判断基準と照らし合わせても、前回の委員会同様、定常範囲を大きく逸脱している状況にあるとは言えない。

このため、中部局では、引き続き国産材の安定供給を下支えするというスタンスで国有林材の計画的・安定的な供給を行うことが肝要であり、令和6年度に計画されている製品生産事業等の早期発注を進めることが重要と考える。

以上により、現時点において、直ちに国有林材の供給調整を行う必要はないと判断する。

5 主な意見

○今年の生産事業はだいぶ遅れて、ピークは12月から1月だった。全体的に遅れ気味だと感じている。南信地域では、国産材を使う製材所が増えてきたように感じる。県内の大手住宅メーカーは、時期的に材の質がいいので確保体制に入っている。外材

の関係では、米マツ等があまり入らないことを見込んで、ヒノキの中目材が上昇傾向になってくる見通し。広葉樹の活気が良く、高値で堅調に販売されている。

今の状況は、見通しが難しいところもあるが、アカマツを除いた部分では、堅調に推移していると感じているので、供給調整の必要はない。

○国産材を使ってみようという顧客が少しずつ増えていると感じている。木曾地域は、台風などの被害もなく、生産は順調にできている。通常だと冬季の生産量は50%程に落ち込むが、今年は暖冬の影響で、夏場と同じくらいの生産ができている。

製品生産関係では、住宅需要が落ち込み、今後の木材価格は下落傾向にあると感じている。プレカットの稼働率も全国的に70%前後と落ち込んでいる。

原木価格については、人工林ヒノキは昨年から底打ちし、比較的高止まりをしている。カラマツ・アカマツは合板工場の受け入れ制限も解除されてきており、仮設住宅などの需要も出てきているが、あまり効果が出てきていない。

輸入材が減少し、国産材にシフトしそうだが、それ以上に住宅需要が弱く、製品価格に反映されていない。

国有林には、木材価格に左右されることなく、中長期的に俯瞰して見ながら、計画の中で需給バランスを取るために安定的に出材をしてほしい。

○岐阜県内の出材状況は、例年だと1月から3月は事業の締切が迫り出材が増えてくる時期だが、春先からの木材需要の低迷を受けて、山側が搬出を伴う事業から、別の事業に切り替えていたこともあり、全体的に出材は減少している。国有林については、次年度に向けて早めに発注していただきたい。

川下の事業の関係では、国産材の製材を強化しようという話があり、特に、入荷しにくくなっている欧州材の集成材関係の商品を中心に要望が強い状況だが、県内のスギの生産量が落ちているので、集荷には苦労しているという現状。B材関係は、全国の工場が決算期に入り、例年決算前には水面下での販売が行われ、単価的には落ちてくる傾向があり、その影響が出ていると感じている。C材関係については、製紙関係は輸入材のコスト上昇があり、国産材の納材要請がかなりある。この要請は今後も継続されると予想している。D材については、新規バイオマス工場ができて、需要が強いが県内の出材だけでは追いつかないので、今後生産量をどう上げていくかが課題。

○昨年の長野県内の生産量は、令和4年と比べると3万m³ほど減少した。要因として、大手合板工場の減産が考えられる。

スギに関して需要はあるが、今年度の国有林事業が終了し、品不足の中で供給が十分にできていない状況が続いている。カラマツについては、思っていたより販売に苦戦している。カラマツを扱う合板会社のうち、長野県から搬出できる範囲は限られており、4月から運送関係がさらに厳しくなる中で、長距離を運んでいくのは中々難しい。また、花粉対策の関係で、スギを多く使っていないといけない中で、原木価格が高いカラマツは、あまり合板工場から求められていないと感じている。

スギについては、山側に安定供給を求めながらやっていきたい。カラマツについては、流通を構築し販売を行っていきたい。国産材需要を拡大していくために、国有林の安定供給は不可欠だと思っているので、生産調整の必要はない。

○震災の関係では、能登エリアからの入荷がストップしており、中能登・加賀森林組合等からカバーをしてもらっている状況。この状況は、今後1年以上続くと見込んでいる。

製材工場については、順調に集材できており、生産量もほぼ計画通りに行えている。販売については、価格は厳しいが、生産したものはすべて売り切っている。現在、一等製品が不足していると感じている。一方で、2等・3等材についてはデッドストックとなっている。

価格動向について、原木仕入れは昨年8月くらいまでは底値であり、9月から現在までは、少しずつ値上げをしている状況。一方で製品価格は、供給メーカーが多く、販売競争となり、価格は毎月厳しさを増している。4月からは、今より需要も出てくると予想しているので、それに向けて生産量を上げていく取り組みをしている。

プレカット工場は、昨年11月くらいから、中々仕事が取れない状況になり、1月2月も仕事量は十分ではないという状況。最近は、震災の影響もあってか、耐震等級や断熱等級を従来の1つ上を目指す工務店が増えてきていると感じている。

○プレカット工場は、現在稼働が8割くらいだと言われている。一般住宅分野が非常に厳しい。

自社で取り扱っている外材比率を見ると、元々は30%程度を外材が占めていたが、今は10~15%の間となっており、材から国産材へとシフトしている流れがあると感じている。

自社の売り上げを見ていると、取り扱い材積は昨年比で、そこまで落ちてはいないが、売上額は落ち込んでおり、流通はあるものの、単価は下がり傾向にあると考える。一昨年比でみると、売上も材積も7割程度に落ちているが、昨年時点の予想よりは、落ち込んでいないので、そこまで悲観することは無いと考えている。